

【問題 1－1】貸付金・借入金

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 横浜建材より 100,000 円を借り入れ、利息 3,000 円を差し引かれ、残額について横浜建材振り出しの小切手を受け取った。
2. ① 取引先に対して現金 400,000 円を期間 3 か月、利率年 8 %で貸し付けた。
② 取引先から、上記の貸付金を満期日に利息とともに同店振り出しの小切手で返済を受けた。
3. 国債を担保として銀行から 200,000 円を借り入れ、利息を差し引かれた手取金は当座預金とした。借入期間は 73 日で、利率は年 7 %である。なお、担保として差し入れた国債については仕訳を行う必要はない。
4. 取引先に対して現金 100,000 円を期間 4 か月、利率年 7.2%で貸し付けた。
5. 取引先から、上記 4. の貸付金を満期日に利息とともに同店振り出しの小切手で返済を受けた。この小切手はただちに当座預金に預け入れた。

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
1								
2	①							
	②							
3								
4								
5								

【問題 2-1】完成工事未収入金・工事未払金

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 材料 20,000 円を仕入れ、代金は現金で支払った。
2. 材料 24,000 円を仕入れ、代金は掛とした。
3. 完成した建物を 40,000 円で売り渡し、代金は現金で受け取った。
4. 完成した建物を 36,000 円で売り渡し、代金は掛とした。

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
1								
2								
3								
4								

【問題 2 - 2】債務保証

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. K 建築の借入金 1,000,000 円の保証人となった。
2. 上記 1. の K 建築が借入金を全額返済した旨の通知があった。
3. かねて債務の保証をした借入金 1,500,000 円につき、債務者の S 建材が返済できないので、S 建材に代わり借入金 1,500,000 円と利息 62,000 円を小切手を振り出して弁済した。なお、債務の保証を行ったとき、偶発債務の処理がしてある。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				

【問題 2-3】火災未決算

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. ① 火災のため店舗を焼失した。焼失資産（減価償却は直接法）は次のとおりであり、保険金を請求した。

建 物 2,800,000 円 備 品 300,000 円

- ② 保険金 2,600,000 円を現金で受け取った。

2. N社は、前月、工場火災が発生し、5,600,000 円の資産が焼失した。これらの資産に対して火災保険契約 6,000,000 円を結んでいた保険会社に保険金の支払いを請求していたところ、本日、査定の結果、4,500,000 円の保険金を支払う旨の通知があった。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1	①			
	②			
2				

【問題 2 - 4】 前渡金・未成工事受入金

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 東京建材へ材料 500,000 円を注文し、その内金として 100,000 円を現金で支払った。
2. かねて注文していた材料 80,000 円を横浜建物から受け取り、内金 20,000 円を差し引いた残額は掛とした。
3. 水道橋商店へ完成した建物 230,000 円を売上げ、内金 50,000 円を差し引いた残額は掛とした。
4. 大阪建材から材料 80,000 円を仕入れ、手付金 20,000 円を差し引いた残額は掛とした（支払手付金勘定を用いる）。
5. 仙台商店へ完成した建物 200,000 円を売上げ、手付金 60,000 円を差し引いた残額は掛とした（受取手付金勘定を用いる）。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				
4				
5				

【問題 3 - 1】経過勘定 (1)

次の各取引の仕訳を示しなさい。

5月1日 契約期間1年の火災保険料36,000円を現金で支払った。

12月31日 決算に際し、前払分を次期に繰り越した。

日付	借 方	金 額	貸 方	金 額
5 / 1				
12 / 31				

【問題 3 - 2】経過勘定 (2)

次の【資料】にもとづき、(1)決算整理仕訳を示し、(2)精算表 (一部) を完成しなさい。

【資 料】

保険料 12,000 円は、7月1日から1年分の支払保険料であり、このうち未経過分は次期に繰り延べることにする (会計期間は1年、決算日は12月31日)。

(1) 決算整理仕訳

借 方	金 額	貸 方	金 額

(2) 精 算 表

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
：								
保 険 料	12,000			()				
()			()					

【問題 3-3】経過勘定（3）

次の各取引の仕訳を示しなさい。

5月1日 1年後に元利合計を返済する約束で500,000円を借り入れ、現金を受け取った。利率は年6%である。

12月31日 決算に際し、未払利息を計上した。

日付	借	方	金	額	貸	方	金	額
5/1								
12/31								

【問題 3-4】経過勘定（4）

次の【資料】にもとづき、(1)決算整理仕訳を示し、(2)精算表（一部）を完成しなさい。

【資料】

残高試算表に示されている支払利息の金額は 11 か月分であり、1 か月が未払いとなっている（会計期間は 1 年、決算日は 12 月 31 日）。

(1) 決算整理仕訳

借	方	金 額	貸	方	金 額

(2) 精 算 表

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
：								
支払利息	2,200		()					
()				()				

【問題 3 - 5】経過勘定 (5)

次の各取引の仕訳を示しなさい。

5月1日 1年分の家賃120,000円を現金で受け取った。

12月31日 決算に際し、前受分を次期に繰り延べた。

日付	借	方	金	額	貸	方	金	額
5 / 1								
12 / 31								

【問題3-6】経過勘定（6）

次の【資料】にもとづき、(1)決算整理仕訳を示し、(2)精算表（一部）を完成しなさい。

【資料】

受取利息 6,000 円は、9月1日から1年分の利息収入であり、このうち未経過分は次期に繰り延べる（会計期間は1年、決算日は12月31日）。

(1) 決算整理仕訳

借	方	金	額	貸	方	金	額

(2) 精 算 表

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
：								
受取利息		6,000	()					
()				()				

【問題 3-7】経過勘定（7）

次の各取引の仕訳を示しなさい。

5月1日 1年後に元利合計で返済を受ける約束で500,000円を貸し付け、現金を渡した。利率は年6%である。

12月31日 決算に際し、未収利息を計上した。

日付	借	方	金	額	貸	方	金	額
5/1								
12/31								

【問題 3－8】経過勘定（8）

次の【資料】にもとづき、(1)決算整理仕訳を示し、(2)精算表（一部）を完成しなさい。

【資 料】

残高試算表に示されている受取地代の金額は 11 か月分であり、1 か月分が未収となっている（会計期間は 1 年、決算日は 12 月 31 日）。

(1) 決算整理仕訳

借	方	金 額	貸	方	金 額

(2) 精 算 表

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借	貸	借	貸	借	貸	借	貸
：								
受取地代		110,000		()				
()			()					

【問題 3-9】 保険料の資産処理

次の各取引の仕訳を示しなさい。

9月1日 契約期間1か年の火災保険料120,000円を現金で支払い、前払保険料として処理した。

12月31日 決算に際し、当期分保険料を月割り計上した。

日付	借	方	金	額	貸	方	金	額
9/1								
12/31								

【問題 4－1】固定資産の取得

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 工場用建物 2,600,000 円を購入し、仲介手数料 70,000 円、登記料 80,000 円とともに小切手を振り出して支払った。
2. 店舗として買い入れた建物を使用前に修繕し、この費用として 650,000 円を小切手を振り出して支払った。
3. 金庫を買い入れ、その代金 900,000 円および据付費用 50,000 円を小切手を振り出して支払った。

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
1								
2								
3								

【問題 4－2】固定資産の取得 2

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. ① H社に倉庫の新築を 4,000,000 円で請け負わせ、代金の一部 1,000,000 円を小切手を振り出して支払った。
- ② 上記の建物が完成したので、請負代金の残額を小切手を振り出して支払い、引き渡しを受けた。
- ③ 決算にあたり、上記の建物について、定額法により減価償却費を計算し、記帳は直接記入法によって減価償却を行った。なお、耐用年数 20 年、残存価額は取得原価の 10%とし、1 年分を計上する。
2. B社に建築を依頼しておいた営業用倉庫が完成し、請負金額 5,500,000 円の残金 1,500,000 円を小切手を振り出して支払った。なお、支払額の全額を建物勘定に振り替えた。

番号		借 方	金 額	貸 方	金 額
1	①				
	②				
	③				
2					

【問題 4－3】固定資産の改良・修繕

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 建物について補修を行い、その補修代金 2,400,000 円は小切手を振り出して支払った。なお、このうち 1,600,000 円は改良費とする。
2. 建物について、取得してから 10 年後に修繕と模様替えを行い、工事代金として 1,200,000 円を小切手を振り出して支払った。このうち 700,000 円は資本的支出とし、残額は収益的支出とする。
3. 建物について定期修繕と改修を行い、代金 3,000,000 円を小切手を振り出して支払った。なお、そのうちの 2,500,000 円は改良（資本的支出）とみなされ、またすでに修繕引当金が 300,000 円設定されていた。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				

【問題 4－4】減価償却＜定額法＞

次の 1.～4.における資料にもとづき、当期の減価償却費を計算しなさい。なお、いずれの場合も、会計期間は 1 年、決算日は平成×4 年 9 月 30 日とする。

1. 平成×3 年 10 月 1 日に購入した車両 800,000 円について、次のとおり減価償却を行った。
償却方法：定額法、耐用年数：5 年、残存価額：取得原価の 10%
2. 平成×4 年 6 月 1 日に購入した備品 300,000 円について、次のとおり減価償却を行った。
償却方法：定額法、耐用年数：4 年、残存価額：取得原価の 10%
3. 平成×2 年 10 月 5 日に購入した車両 1,500,000 円について、次のとおり減価償却を行った。
償却方法：定額法、耐用年数：3 年、残存価額：取得原価の 10%
4. 平成×3 年 4 月 1 日に購入した備品 650,000 円について、次のとおり減価償却を行った。
償却方法：定額法、耐用年数：6 年、残存価額：取得原価の 10%

1. 当期の減価償却費 円
2. 当期の減価償却費 円
3. 当期の減価償却費 円
4. 当期の減価償却費 円

【問題 4－5】減価償却＜定率法＞

次の 1.～3.における資料にもとづき、当期の減価償却費を計算しなさい。なお、いずれの場合も、会計期間は 1 年、決算日は平成× 4 年 6 月 30 日とする。

1. 平成× 3 年 7 月 1 日に購入した車両 2,000,000 円について、次のとおり減価償却を行った。

償却方法：定率法、 償却率：年 36%

2. 平成× 4 年 4 月 1 日に購入した備品 650,000 円について、次のとおり減価償却を行った。

償却方法：定率法、 償却率：年 20%

3. 平成× 2 年 7 月 5 日に購入した車両 2,000,000 円について、次のとおり減価償却を行った。

償却方法：定率法、 償却率：年 25%

1. 当期の減価償却費 円

2. 当期の減価償却費 円

3. 当期の減価償却費 円

【問題 4－6】減価償却 3

次の資料にもとづき、建物、備品の減価償却費を計算しなさい。なお、会計期間は1年であり、決算日は平成×4年3月31日とする。

2,000,000	建	物	
800,000	備	品	
	建物減価償却累計額		864,000
	備品減価償却累計額		408,000

(決算整理事項)

固定資産の減価償却を次のとおり行う。

1. 建物：定額法

耐用年数 25年

残存価額 取得原価の10%

2. 備品：定率法

償却率 年30%

1. 建物の減価償却費 円

2. 備品の減価償却費 円

【問題 4－7】固定資産の売却

1. 期首に、機械（取得原価 1,200,000 円、減価償却累計額 684,000 円、間接控除法）が古くなったので、400,000 円で売却した。なお、代金は月末受け取りの約束である。
2. 平成×2年4月1日に購入した備品（取得原価 1,000,000 円）を平成×4年4月1日に 430,000 円で売却し、手取金は月末に受け取ることにした。なお、この備品については定率法（償却率 0.369）によって償却してきており、間接法で記帳している。当社の決算日は3月31日（年1回）である。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				

【問題4-8】営業権

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 東京商店は、次に示すような財政状態の千葉建材を 7,000 千円で買収し、代金は小切手を振り出して支払った。なお、貸借対照表に示されている科目はそのまま仕訳の科目として用いること。

千葉建材	貸 借 対 照 表		(単位：千円)
完成工事未収入金	1,000	長期借入金	1,300
材 料	2,500	資 本 金	6,200
建 物	4,000		
	7,500		7,500

2. 決算に際し、上記1. の営業権について20年で償却すること

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				

【問題 5－1】資本金

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 埼玉産業株式会社は、新株式 200 株を 1 株の発行価額 70,000 円で発行し、払込金額は当座預金とした。なお、「会社法」が定める原則的な金額を資本金とする。
2. 東京物産株式会社は、新株式 200 株を 1 株の発行価額 80,000 円で発行し、払込金額は当座預金とした。なお、資本金には「会社法」で認められる最低額を組み入れる。

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
1								
2								

【問題 5－2】 株式申込証拠金

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 東京建材株式会社は、取締役会の決議により未発行株式のうち 2,000 株を発行価額@80,000 円で募集し、申込期日までに全株式数が申し込まれ、発行価額の全額を申込証拠金として受け入れ、別段預金とした。
2. 同社は、上記 1.の申込証拠金をもって払込金に充当し、払込期日に資本金に振り替え、同時に別段預金を当座預金に預けかえた。なお、資本金には発行価額のうち「会社法」で認められる最低額を組み入れることとした。
3. 新株の発行に際して、払込期日までに払い込まれ、別段預金に預け入れられていた申込証拠金を払込期日の翌日に資本金に振り替え、同時に別段預金を当座預金に預け入れた。なお、発行する新株は 800 株で、発行価額（1 株につき 70,000 円）の全額が払い込まれていた。資本金には「会社法」で認められる最低額を組み入れる。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				

【問題5－3】 創立費・開業費

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. A社の設立に際し、発起人の報酬・設立諸費用 500,000 円を小切手を振り出して支払った。
2. A社の設立後営業開始までに要した諸費用 300,000 円を小切手を振り出して支払った。
3. 第1期の決算につき、上記1.と2.の繰延資産について、それぞれ商法規定の最低額を償却をした。
4. 会社設立に際し、株式総数 4,000 株のうち 1,000 株を、1株の発行価額 60,000 円で発行し、払込金額を当座預金とした。

なお、資本金には発行価額のうち「会社法」で認められる最低額を組み入れることとした。また、株式発行のための費用 450,000 円は小切手を振り出して支払った。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				
4				

【問題 5－4】新株発行費

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. B社は、新株の発行に際し、新株募集費・株券印刷費などの諸費用 300,000 円を小切手を振り出して支払った。
2. 決算にあたり上記 1. の繰延資産について、商法規定の最低額を償却した。
3. C社は、株式発行のための費用 720,000 円を小切手を振り出して支払った。この取引を (イ) 会社設立の場合と、(ロ) 新株発行の場合とに分けて示しなさい。

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
1								
2								
3	(イ)							
	(ロ)							

【問題 5 - 5】 減資差益・合併差益

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 発行済株式 1,000 株（資本金総額 50,000,000 円）について、2 株を 1 株に併合して減資を行い、未処理損失 20,000,000 円を補てんした。
2. A社は、B社を吸収合併して、株式 600 株を交付した。なお、合併によって引き継いだB社の資産・負債は、完成工事未収入金 12,000,000 円、建物 25,000,000 円、土地 40,000,000 円、工事未払金 18,000,000 円、長期借入金 22,000,000 円であり、1 株当たり 50,000 円を資本金とする。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				

【問題5－6】法人税等

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. A社は、法人税等について中間申告を行い、税額 720,000 円を小切手を振り出して納付した。
2. B社は、決算に際し、本年度の法人税等が 2,300,000 円と確定したので、この金額から中間納付額 1,000,000 円を控除した金額を、未払法人税等勘定に計上した。なお、法人税等の中間納付額は仮払法人税等勘定に記入されている。
3. 過年度の法人税について更正を受け、追徴税額 500,000 円を小切手を振り出して納付した。

番号	借	方	金	額	貸	方	金	額
1								
2								
3								

【問題 5－7】利益処分（1）

次の一連の取引の仕訳を示しなさい。

1. 3月31日 決算の結果、当期純利益 5,000,000 円を計上した。なお、前期繰越利益 800,000 円は繰越利益勘定に記入されている。
2. 6月25日 株主総会において、当期の未処分利益につき次のとおり利益処分が確定した。
利益準備金 会社法規定の最低額 株主配当金 5,000,000 円
3. 6月26日 株主配当金を小切手を振り出して支払った。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				

【問題 5－8】利益処分（2）

次の1. および2. の金額を求めなさい。

1. 利益の処分に際し、次の金額の支払いを決定した場合、新たに積み立てるべき利益準備金の最低額はいくらになるか。なお、資本金は 40,000,000 円、資本準備金は 0 円、利益準備金の既積立額は 9,900,000 円である。

配当金 4,000,000 円

2. 利益の処分に際し、次の金額の支払いを決定した場合、新たに積み立てるべき利益準備金の最低額はいくらになるか。なお、資本金は 50,000,000 円、資本準備金は 8,000,000 円、利益準備金の既積立額は 4,200,000 円である。

配当金 5,000,000 円

1	円
2	円

【問題 5－9】利益処分（3）

次の取引の仕訳を示しなさい。

株主総会において、未処分利益 12,000,000 円について次のとおり利益処分が確定した。

なお、当社の資本金は 60,000,000 円であり、資本準備金 10,000,000 円、すでに積み立てられている利益準備金は 4,800,000 円である。また、次期繰越利益は未処分利益勘定で繰り越す方法によってい

利益準備金 会社法規定の最低額 配当金 8,000,000 円
別途積立金 2,000,000 円

借	方	金	額	貸	方	金	額

【問題 5-10】 損失処理

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 福島工業株式会社は、株主総会において、未処理損失 2,300,000 円を次のように処理することを決定した。
別途積立金 2,000,000 円を取り崩し、残額は次期に繰り越す。
* 「繰越損失」勘定を用いること。
2. 株式会社神奈川建設は、株主総会において、未処理損失 1,800,000 円を、別途積立金 500,000 円、減債積立金 1,000,000 円を取り崩しててん補し、残額は次期に繰り越すことにした。
* 「未処理損失」勘定のみで処理する方法によること。
3. 株式会社神奈川物産では、決算の結果、当期純利益 2,000,000 円が計上された。なお、繰越損失勘定の借方残高は 720,000 円である。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				

【問題6-1】社債（1）

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 平成×4年4月1日 A社は、額面総額10,000,000円の社債を償還期限10年、利率年4%（3月末と9月末の年2回払い）、額面100円につき95円の条件で発行し、払込金は当座預金とした。なお、社債発行のための諸費用300,000円は、小切手を振り出して支払った。
2. 平成×4年9月30日 第1回の利息（半年分）を、小切手を振り出して支払った。
3. 平成×4年12月31日 決算に際し、未払社債利息を計上するとともに、社債発行差金は償還期限、社債発行費は3年で償却を行った。なお、社債利息と社債発行差金は月割り計算、社債発行費は期割り計算とする。

番号	借方	金額	貸方	金額
1				
2				
3				

【問題6-2】社債（2）

次の各取引の仕訳を示しなさい。

1. 平成×3年4月1日 株式会社S A（年1回、3月末決算）は、額面総額10,000,000円の社債を、額面100円につき98円で発行し、全額の払い込みを受け、これを当座預金とした。また、社債の発行費用150,000円は小切手を振り出して支払った。なお、この社債の償還期限は5年、利率年3.6%、利払日は9月30日と3月31日の年2回である。
2. 平成×3年9月30日 第1回の利息（半年分）を、小切手を振り出して支払った。
3. 平成×4年3月31日 決算に際し、社債発行差金と社債発行費を償却すると同時に、社債利息の未払額を計上した。
なお、社債発行差金は償還期限内、社債発行費は3年内の均等償却とする。
4. 平成×8年3月31日 本日満期につき、最終回の利息とともに小切手を振り出し、全額を償還した。

番号	借 方	金 額	貸 方	金 額
1				
2				
3				
4				

【問題6-3】買入償還

次の取引の仕訳を示しなさい。

1. S社（会計期間は1年、決算日は6月30日）は、平成×4年7月1日に社債額面総額20,000,000円（平成×2年7月1日に額面100円につき97円で発行、償還期限5年）のうち5,000,000円を額面100円につき98円で買い入れ、小切手を振り出して支払った。買い入れた社債は直ちに消却した。
2. A社は、平成×4年4月1日に社債額面総額10,000,000円のうち4,000,000円を、額面100円につき98.50円で買い入れ小切手を振り出して支払った。なお、社債は平成×2年4月1日に額面100円につき97円で発行したもので、償還期限は5年である。同社の会計期間は1年、決算日は3月31日である。

番号	借方	金額	貸方	金額
1				
2				